

## 2021 年度 青年部 活動報告

青年部 木村宏太郎

### 体制

3 期目の木村、2 期目の藤田真人さん、1 期目の武石大吾さん、佐藤康隆さんの 4 名で青年部の活動、及び連携総括としては、教育部と連携して「日本人学校支援」を行いました。

### 活動目的と内容、成果と課題【秋祭り】

今年こそ秋祭りを開催しようと、年度初めから入場規制と人数管理が可能な UOG フィールドハウスでの新しい開催を模索しました。7 月には秋祭り実行委員会を組織して開催を目指しましたが、8 月に変異株が出現。祭りの本質は「体験」であり「実感」すること、この本質を満たす「安全な開催」を行うことは不可能であると判断し、断腸の思いで第 41 回秋祭りの開催を断念しました。しかしながら、日本人会の活動に対して、総領事館をはじめ、UOG、そして実行委員会の外部（相談役）の方々のご理解と協力を惜しまぬ姿勢に深い感謝を申し上げるとともに、この秋祭りに掛ける思いが沢山集まることで、40 回も開催してこられたのだと痛感いたしました。課題としては、ウィズコロナ・アフターコロナ時代においてより安全かつ効果的な形で体験型リアルイベントの開催方法、周囲の理解、そして協賛集めが大きな課題として残ります。

### 活動目的と内容、成果と課題【学校支援】

昨年度はオンライン授業作業部会、ICT 環境整備に取り組みましたが、児童生徒数の減少を続ける日本人学校支援を本年度も平野教育部長と連携して活動して参りました。この 2 年間は子ども達の「学びの場」の変化への対応が問われました。これは世界中にある在外教育施設、全てが同じ状況です。昨年着任された井手校長先生の目指す新しい学校像とは何か、子ども達のために何がしてやれるのかを討究し、強い在外教育施設づくりを支援するため、9 月に学校改革推進委員会（SRC）を設立しました。組織には学校と日本人会理事だけではなく、保護者にも参加して貫き「背景と変化」から「課題と対策」を深掘りし、3 つの事項を中心に活動をしました。①新しい学校像と授業の内容、そして財政状況を保護者が把握するまで説明会を開催（英語授業・日本語支援・ミックスレッスン）②現地校への編入時の不安対策（現地校に合わせた成績評価）③教育カリキュラムのない幼稚部から小学部入学に向けての日本語習熟度対策。成果としては①では、保護者の理解度向上に貢献し、現地校への離散防止と授業料の値上げに対する理解を得られたと考えられます。②では、日本語教師会（GuNTA）と接見し、今後の生徒同士の交流だけでなく、先生同士の進学相談や成績評価方法にも役立つと期待します。③では、佐藤補習授業校校長が中心となり、家庭での映像教育コンテンツを纏めてもらい、先生方に指南してもらいました。課題としては、全・補・幼の連携、卒業から 8 月までの期間や放課後を活用した補完授業、外部に対する日本人学校の広報活動、そして継続した寄付集めが残ります。

### 活動目的と内容、成果と課題【JCEG2022】

JCEG2022 では、秋祭りと同じ「子ども達のため、そしてグアム地域の方との文化交流」をスローガンに、日本語教師会のご協力を賜りながら現地校の生徒たちが多数参加する企画を通し、日本人学校が日本文化の発信拠点となれるようお手伝いをさせて頂きました。未来に希望が満ち溢れる子ども達の笑顔には、番組を閲覧したグアム地域の方々も勇気づけられたことは言うまでもありません。課題としては、コロナの状況でリアルイベントを断念せざるを得ず、オンラインイベントとしたい場合、理事会だけでなく周囲の理解、協力と協賛を得るための調整に労力が必要となることがあげられます。

以上